

【なぜ週刊文春はスクープを連発できるのか

——99年目の雑誌ジャーナリズム入門】

(水曜日・4時限講義 ※後期のみ)

常井健一

最近、「文春砲」という言葉をよく聞きますか？

大手メディアが名を連ねる「記者クラブ」に属さず、中央官庁に出入りできる入館証も持たずして、各界のリーダーらから最も警戒されている約50人の野武士集団が、ジャーナリズムの世界で異彩を放っています。

服装・髪型自由、性別・学歴・経験不問——。採用基準があってないような週刊文春編集部に集まったニュースの職人たちは、いかに全国紙を凌ぐ取材力を育み、どうして世の中を突き動かす影響力を持ちえたのか。

この授業では、「週刊文春」に加え、ライバル誌「週刊新潮」も含めたあらゆる雑誌に寄稿し、著作を出版してきた講師が、様々な角度から「週刊文春の強み」をみなさんと分析しつつ、2022年で100年を迎える〈週刊誌〉というメディアの面白さと可能性に迫ります。

出版社やスポーツ新聞社、ネットメディアへの就職・転職を検討中の方はもちろん、「正社員」という雇用形態や業界の枠にとらわれない働き方、あるいは、独自の表現方法にこだわった仕事を目指す方の受講をおすすめします。

◆主なトピック

- 「雑誌ジャーナリズム」の歴史と特徴
- 「週刊文春」はなぜ強いのか
- 「週刊文春」と「週刊新潮」を読み比べよう
- 職業としての「雑誌記者」
- ライバル「週刊新潮」の研究
- 雑誌メディアのDXと未来予想図

◆主要参考図書/参考映画

- 『2016年の週刊文春』（柳澤健、光文社、2020年）
- 『鬼才 伝説の編集人 齋藤十一』（森功、幻冬舎、2021年）
- 『文春砲 スクープはいかにして生まれるのか?』（週刊文春編集部、角川新書、2017年）
- 『ブンヤ暮らし三十六年 回想の朝日新聞』（永栄潔、草思社、2015年）
- 「マイ・バック・ページ」（山下敦弘監督、妻夫木聡主演、2011年）
- 「SCOOP!」（大根仁監督、福山雅治主演、2016年）
- 「凶悪」（白石和彌監督、山田孝之主演、2013年）

常井健一（とこい・けんいち）

ノンフィクションライター。1979年、茨城県生まれ。大学時代からネットメディアの立ち上げに携わり、ライブドアを経て、朝日新聞出版に入社。「AERA」編集部で勤務後、2012年末に独立。17年、「小泉純一郎独白録」（月刊文藝春秋）で第23回編集者が選ぶ雑誌ジャーナリズム賞。20年、『無敗の男 中村喜四郎全告白』（文藝春秋）が大宅壮一賞、本田靖春賞、城山三郎賞の最終候補作に。主な取材テーマは、政治家とその家族。